

中国律宗における四分律の 大乘的理解

——四分律行事鈔の引用經典に関して——

川口 高風

大乘律宗と言われている中国律宗が所依としているのは声聞戒の四分律であるが、それをいかに駆使し大乘として通じさせ中国人に適つた戒律としていつたかをながめることは中国律宗の研究における重要な問題の一つにあげられる。そこで私は律宗三大部の根本である南山道宣（596～657）の『四分律行事鈔』において、どのよう
に四分律が大乘の意として転換し受け取られていつたかを考察してみようと考へた。

ところで従来、中国律宗が大乘と言われる理由として（一）戒体論（二）四分律の五義分通大乘と言われているが、『行事鈔』に引用された典籍をすべて調査した結果、『行事鈔』における典籍引用方法にも大乘に通ずる橋渡しがなされていることを見出した。そしてその例として菩薩戒經の引用意義を「駒大大学院仏教学研究年報第六号」に考察してみたが、ここでは經典を取りあげて考へてみたい。

さて中国律宗の所依經典について『行事鈔』では何もあげていないが、凝然は『律宗綱要』に「問。以幾教典。總爲律宗所依法門。須定三分齊。答。祖師域心大乘一極。超勝高大広博甚深。專依一乘。因融教典。起心発足。学行弘持。法華涅槃楞伽撰論即是行用伝布

所憑。一乘極道不_レ過三学。次第相由速到_二仏果_一。」（大正七四・九上）といい、法華經、涅槃經、楞伽經をあげている。しかしこれらは何を規準として選んだか明らかではないが、道宣は「標宗顯徳篇」の化教において大小乗經典を区別してあげている。それによれば小乘經として泥洹經、遺教經、大乘經では華嚴經、大集經、薩遮尼乾經、月燈三昧經、涅槃經があげられている。これらの典籍の引用回数には泥洹經2回、遺教經6回、華嚴經10回、大集經22回、薩遮尼乾經2回、月燈三昧經1回、涅槃經60回であり、凝然のいう法華經は引用されず楞伽經は5回になっている。この中、扶律談常といわれ律に関する説明が多い涅槃經は引用經典として阿含經に続き二番目に多く引かれ、特に「隨戒釈相篇」の戒体相状を示す所に多く引かれている。また『資持記』に「一者実法宗即薩婆多部……二者假名宗。即今所_レ承曇無徳部……三者円教宗。即用_二涅槃開會之意_一。決_二了權乘_一同帰_二実道_一。故考_二受体_一。乃是識藏熏種。」（大正四〇・一五七中下）といつて円教の南山律宗は涅槃經の開會の立場に立脚していることが知られるのである。そこで涅槃經の引用される方法を「四葉受淨篇」の四葉の第一時葉に見れば、

行事鈔

時葉有二。四分中有五
種蒲團尼_一謂麩飯乾飯魚
肉也。……

原文

仏言。聽_レ乞食食_二五種食_一。爾時此
丘乞食得_レ飯。仏言。聽_レ食。得_二三種
種飯_一。種飯。大麥飯。米飯。粟米飯。俱
跋陀羅飯。仏言。聽_レ食。如_二是種
種飯_一得_レ麩。仏言。聽_レ食。種種得_二
乾飯_一。仏言。聽_レ食。種種乾飯得_レ
魚。仏言。聽_レ食。三種種魚得_レ肉。

諸律並明_二魚肉_一爲_二時食_一。
此是麩前教。

涅槃云。從今日後不聽弟子食肉。觀察如子肉想。夫食肉者斷大慈種。水陸空行有命者怨。故不令食。……
稜伽云有無量因緣不令食肉。略說十種。一者一切衆生無始以來常為六親。以親想故不令食肉。二狐狗人馬屠者雜食故。三不淨氣分所生長故。四衆生聞氣悉生怖故。五令修行者慈心不生故。六凡愚所習臭穢不淨無善名稱故。七令呪術不成就故。八以食肉見形起識。以染味著故。九諸天所棄多惡夢虎狼聞香故。十由食種種肉遂噉人肉故。

中国律宗における四分律の大乗的理解(川口)

仏言。聽食種種肉……(大正二二・八六六下)善男子。從今日始不聽聲聞弟子食肉。若受檀越信施之時。應觀是食如子肉想。迦葉菩薩復白仏言。世尊云何如來不聽食肉。善男子。夫食肉者斷大慈種。(大正十二・三八六上)
仏告大慧。有無量因緣不令食肉。……謂一切衆生從本已來。展転因緣常為六親。以親想故不令食肉。驢騾略駝狐狗牛馬人獸等肉。屠者雜食不令食肉。不淨氣分所生長故不令食肉。衆生聞氣悉生恐怖。如旃陀羅及譚婆等。狗見憎惡驚怖群吠故不令食肉。又令修行者慈心不生故不令食肉。凡愚所習臭穢不淨無善名稱故不令食肉。令諸呪術不成就故不令食肉。以殺生者見形起識深味著故不令食肉。彼食肉者諸天所棄故不令食肉。令口氣臭故不令食肉。多惡夢故不令食肉。……(大正十六・五一三下)為此丘

僧祇云。若為比丘殺者。一切七衆不令食。乃至為優婆夷殺。七衆不令食。亦爾。
殺者一切比丘比丘尼式叉摩尼沙弥沙弥尼優婆塞優婆夷不令食。如是乃至為優婆夷殺。一切比丘不得食。(大正二二・四八六上)

今学戒者多不食之。与中国大乘僧同例。有学大乘語者用酒肉為行解。則大小二教不取。自入屠兒行内。天魔外道尚不食酒肉。此乃闍羅之將吏耳。(大正四〇・一一八上)
とあつて、最初四分律で許される五種の正食をあげているが、この中には魚や肉なども入つており、また他の律にも魚肉を食べても良いことをいっているのである。そして次に涅槃經を引き慈悲の面から肉食を禁じ、さらに四卷楞伽の断食肉品を引き、肉を食べてはいけない十種の過をあげている。そして僧祇律を引き、比丘や優婆夷のために殺したものは食べてならないことをいっているのである。これらの理由によつて道宣は最後に「今の学戒者多く之を食せず」と当時の僧が魚肉を食べなかつたことをあげており同所の『資持記』によれば中国の大乗僧は梵網經や涅槃經、楞伽經によつて慈悲を最大事にするためといっているのである。

以上のように四分律の肉食許可を方便の權教とし、涅槃經、楞伽經を引用して絶対に禁止する大乘の意味に転換していることが明らかになる。では凝然のいう法華經はどうかといへば、平川彰博士の「道宣の法華經觀」(法華經の中国的展開)所収)でもいうように特に他の經典より取り立てて重要視したとはいえない。このように中国律宗が大乗教といわれる理由には、四分律を律宗所依經典の涅槃經や楞伽經によつて大乘の意味唯に転化させていることが指摘できもいえるのである。